

2024 年度 事業計画書

特定非営利活動法人 出愛いの里福社会

1. 所是～作業所の基本方針

- 1) 私たちは、障害のある人の働く力を伸ばし、社会の一員となるよう支援します。
- 2) 私たちは、障害のある人の人権や福祉事業に対する理解を、多くの市民及び団体等と連携を図りながら進めていきます。
- 3) 私たちは、個人又は集団の力量を高めるべく科学と創造の視点を大切にしながら、たゆまぬ学習、研鑽に努めます。
- 4) 私たちは、利用者が主人公の立場を堅持して、変化を模索する姿勢を身につけ、察知し、絶えず革新し続けます。
- 5) 私たちは、いい形、いい状態の作業所を常に作り続け、次世代にバトンタッチします。

2. 概要

- 1) 所在地
第 1 作業所 姫路市伊伝居 76 番地の 14
第 2 作業所 姫路市伊伝居 81 番地の 8 平井ビル 1F
第 3 作業所 姫路市野里上野町 2 丁目 826 番地の 6

2) 職員体制 15 名(常勤職員 10 名、非常勤職員 5 名)

3) 利用者実態

①多機能型(生活介護・就労継続支援B型) 定員 40 名

②性別構成(2024 年 5 月 1 日現在) 単位:人

	男	女	計
生活介護	7	2	9
就労B型	20	9	29
計	27	11	38

③年齢別構成(2024 年 4 月 1 日現在)

単位:人

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	計
生活介護	0	3	6	0	0	9

就労B	3	17	7	2	0	29
計	3	20	13	2	0	38

※平均年齢：生介 30.5歳 就B 27.1歳 全体 28.1歳

④障害支援区分(2024年4月1日現在)

単位:人

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	0	0	6	2	1	9
就労B	1	6	0	0	0	7
計	1	6	6	2	1	16

※生活介護平均区分：4.3

⑤障害年金級別状況

単位:人

	1級	2級	計
生活介護	9	1	10
就労B型	4	22	26
計	13	23	36

3. 沿革

- 2005年 4月 『福祉作業所出愛いの里』開設(姫路市野里大和町)、定員6名
- 2006年 4月 障害者自立支援法施行、姫路市伊伝居に移転(現第1作業所)
- 2008年 3月 特定非営利活動法人 出愛いの里福祉会設立
- 4月 姫路市内初の法内施設として地域活動支援センターⅢ型移行、定員11名変更
第1作業所改修工事
- 2009年 1月 地域活動支援センターⅡ型移行、定員15名変更
- 2010年 4月 就労継続支援B型事業移行、定員20名変更、第2作業所改修工事
- 6月 ヤマト福祉財団『革新塾』参加。
- 2015年 6月 多機能型移行(定員30名変更:生活介護、就労継続支援B型)
- 9月 第1作業所解体工事、生活介護事業所仮移転(伊伝居)
- 2016年 3月 第1作業所新築工事完成
- 9月 定員35名変更

2017年	2月	姫路市内障害者就労支援施設研修会:講演(所長)
	8月	讀賣新聞、出愛いの里の工賃向上の取り組み記事掲載
	11月	財務省:財政制度等審議会『平成30年度の予算編成等に関する建議:参考資料Ⅱ-1-46、66P』、出愛いの里の取組掲載
	12月	日本発達障害システム学会事例報告(東京学芸大学:所長)
2018年	1月	ヤマト財団ニュース第57号、出愛いの里取り組み記事掲載
	10月	ホームページ開設
	11月	ヤマト財団第4回新堂塾フォローアップ研修 in 姫路開催(出愛いの里主催)
2019年	6月	プライバシーマーク取得(個人情報保護規格)
	11月	第3作業所建設着工(姫路市野里上野町)
2020年	4月	定員38名変更 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令、国の指示により利用自粛要請
	5月	第3作業所完成 作業所間オンライン通信システム(VPN)構築、テレワーク開始
2021年	4月	施設外就労開始
	7月	オンライン研修開始
2022年	8月	新堂塾企画委員会所長参加(定期開催)
2023年	1月	ヤマト財団パワーアップフォーラム(東京会場)実践報告__所長
2023年	3月	第3作業所太陽発電設備整備
2023年	4月	BCP:業務継続計画策定
	9月	第1作業所太陽発電設備整備
2024年	4月	定員40名変更

4.2024年度報酬改定への対応

2024年度は、医療と介護、障害福祉サービスの3報酬を同時に見直す「トリプル改定」の年に当たっており、障害福祉サービス全体の報酬の仕組みが大きく変更されました。利用者の方々へ提供するサービスの質を高め、法人の財政基盤を確固としたものとするため、報酬改定に適切に対応していきます。

- ◆食事提供体制加算…利用者ごとの摂食量、体重、BMI(肥満度を示す指標)等の記録の要件化
- ◆生活介護事業…営業時間からサービス提供時間に応じた報酬単価への変更__7時間未満減収
- ◆就労継続支援B型事業…高い工賃を支払っている事業所へのインセンティブの強化

手厚い人員配置をした事業所を評価(職員配置 6:1 の新設)

5.職員教育への取組み

2024 年度においても、OJTとOFF-JTを組み合わせる研修計画を策定し、利用者支援の要である職員の教育機会を十分に確保し、その資質向上に努めます。特に、虐待防止に係る研修については、利用者の方々の権利利益の擁護を目的として年に 1 回以上、全職員を対象に事業所で研修を実施するとともに、外部研修にも積極的に参加します。さらに、事業所全体として利用者の方々へ質の高い福祉サービスを提供できるよう、幹部職員は率先して全国の先進施設を見学し、その先進事例から得た学びを現場改善に活かし、職員の模範となる実践に繋げていきます。

6.ICT 化の推進

記録ソフトや給付費請求ソフト、家族・職員との連絡ツール等、ICT機器の活用を検討し、業務の省力化と効率化に向けた取り組みを進めていきます。

- ◆テレワーク、オンライン会議・研修、ペーパーレス化、液晶モニター設置等
- ◆諸費用、行事費等のキャッシュレス化 … インターネットバンキング利用の検討
- ◆情報発信…出愛いの里ホームページを活用した情報発信 (<http://deainosato.jp>)

7.脱炭素社会の実現への取組み

当法人は SDGS(「Sustainable Development Goals」持続可能でよりよい社会を目指すための国際目標)の内、「⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、「⑬気候変動に具体的な対策を」に取り組み、再生可能エネルギー導入を通じて脱炭素社会の実現に寄与します。またエネルギーコストの削減及び災害時の停電が起きた際の非常電源として活用。そして電気自動車の普及状況を勘案しながら、2030 年に向けて、V2H システム(Vehicle to Home)の研究を開始します。

※2023 年 3 月第 3 作業所に、同年 9 月第 1 作業所及び太陽光発電設備整備済み。

第1・3 作業所	CO ₂ 排出量(kg)	電気代(円)
2022 年度	4427.69	472,884
2023 年度	1872.40	109,814
差	2555.29	363,070

※前年度と比較して、CO₂排出量2,555 kg減少し、電気代は年間 36 万円余り節約。

8.生活介護事業の取り組み

安心、安全な環境を整備するとともに、良好な面に目を向け個性を伸ばし、生活のリズムを整え、無理なく働く場、居場所、社会参加可能な場を提供します。

●活動内容 … 作業訓練、機能訓練、創作活動、余暇活動等

1)健康維持、情緒安定

- ・ADL訓練 … 感染症予防のため、手洗いの仕方を実地指導し、反復練習をします。
- ・外出プログラム … 各種外出訓練及び社会見学、イベント等に積極的に参加し、社会との交流活動を通じた社会生活能力向上のための支援を行います。
- ・健康管理 … 歩行訓練(毎日)、理学療法士監修のストレッチ体操(週1回)、BMI測定(月1回)、予防接種(年1回)、健康診断(共立HP__西暦偶数年__生介・プラダン班、西暦奇数年__DM・施設外班)クリーキャンペーン(地域連携)

2)意思決定支援の実施

各種活動に関して、利用者の方自身が自分で選んだり決めたりする機会を設け、“こうしたい”と思う意思を大切にし、自身が思い描く生活を送る事が可能となるように支援をしていきます。

意思決定支援の具体例

- ・外出やレクリエーションの際に、複数の選択肢を提示し、したいと思うものを自分で選び、実行できるようにします。
- ・選択肢を2択や3択にしぼる等、ご本人の状態に合わせて選びやすいように配慮します。
- ・絵カードや写真も利用し言葉での理解や表出が難しい方について選択・決定が出来るようにします。
- ・言葉だけでなく、指差しや表情・視線など、その方の伝えやすい方法での意思表示を見逃さずに大切にします。
- ・活動を通してできたことを一緒に喜び、分かち合います。

3)プログラムの更なる充実

それぞれの利用者の方が楽しみながら参加することができ、生活能力の維持・向上を目指したプログラムを実施していきます。日中活動を通して様々な経験ができるように、現在実施しているプログラムの更なる改善と新たなプログラム開発に取り組んでいきます。また音楽療法やアートセラピー等、専門講師を招いたプログラムを6月から再開する予定です。

◆1週間のプログラム例

	月	火	水	木	金
AM	歩行訓練 作業	歩行訓練 作業	歩行訓練 作業	歩行訓練 作業	歩行訓練 作業
PM	手洗い指導 学習 製作	手洗い指導 ストレッチ	書道	清掃活動	クッキング 外出プログラム

9. 就労継続支援 B 型事業の取組み

経済的自立を図るために、より高い作業工賃を目指します。また働く力が高まった人は、本人の希望に沿って一般就労を支援します。

【 社会人としての 4 つのマナー 】

- 1) 挨拶する。
- 2) 休まない。
- 3) 時間を守る。5分前行動。
- 4) 身だしなみを整える。

1) 利用者の方々の働く力の向上のための実践

菅野敦東京学芸大学名誉教授の【働く力を伸ばし・しごとに向かう態度を育成する7Step と5S】理論の実践を今後も進めていきます。あわせて、利用者の方々の働く力の向上のために、各職員が作業現場や作業方法の改善等に取り組み、その取り組みの成果を実践報告会で発表をする機会をつくります。管理者や他の職員と一緒に実践の振り返りや今後の支援の在り方を検討する機会を通して、個々の職員の実践力向上を目指します。

2) 施設外就労の充実

少子高齢化による労働力人口の減少から、日本は今後ますます人手不足が深刻化することが予想されています。また、障がい者の法定雇用率が令和 6 年 4 月から 2.7%に引き上げられ、障がい者雇用の重要性も高まっています。施設外就労は企業にとって、業務の一部を福祉施設に発注することで安定的な労働力の確保につながり、さらに企業内の実際の業務を利用者の方々が担うことから、雇用前にトレーニングができ、直接雇用後の即戦力化も期待できます。以上のような時代背

景を踏まえ、現在の下請け作業は継続しながらも、今後は特に施設外就労を充実させ、授産事業の大事な柱の一つとして、確実に成長させていきたいと考えています。

3) 工賃評価

昨年度に引き続き、労働時間と作業スキルの評価に加え、職業生活や対人面、仕事への態度といった領域についても評価を実施し、評価結果に基づいて時給を決定します。

4) パワーゲート(リフト付き)トラック購入の検討

重量物の積込みや荷下ろしにかかるドライバーの労力を減らし、納品業務の省力化・効率化を図るための車両整備を検討していきます。

10. 2024 年度行事計画(案)

月度	生活介護	就労B	全体
4 月	花見、説明会 4/29	※入所式・説明会 4/6	報酬・加算関係書類作成及び提出
5 月	外出プログラム	第 3 作業所への作業場所統一	洪水避難訓練・職員健康診断
6 月	外出プログラム トライやる受入れ 6/3～7 スポーツ大会 6/26	昇降機定期点検	定期総会兼理事会 6/8PM
7 月			合同説明会 7/4
8 月	食事会・大掃除	食事会・大掃除	健診_偶数年_第 1+プラダンチーム
9 月	個別懇談会	外食会	消火避難訓練
10 月	外出P、共同募金活動	ジョイフルスポーツフェア	個別懇談会
11 月	福祉コンサート、ミカン狩り	ひめよう祭	インフルエンザ予防接種
12 月	大掃除	大掃除・食事会	
1 月	初詣・食事会		地震避難訓練
2 月	個別面談	社会見学_テーブルマナー2/22	←ホテル日航姫路
3 月	個別面談	個別面談、ひめされんまつり	20 周年記念行事準備

☆レストラン(就労 B)_はなの家、あすかの家 ☆喫茶_ゆうかり作業所、ルネス花北